

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(11)

UCI(いわゆる「郭グループ」)は、日本で集会を行って『統一教会の分裂』という書籍を広めています...

注、真の父母様のみ言および『原理講論』は「青い字」で、UCI側の主張は「茶色の字」で区別しています。

十四、「父子協助時代、母は必要ない」と主張する誤り

(1) 出典文献に関する隠蔽と、み言の改竄行為

金鍾奭著『統一教会の分裂』の問題箇所を引用します。

「二〇〇〇年十一月には『母子協助時代が終わって父子協助時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならない』と語った」(70ページ)

上述のように、金鍾奭氏は、真のお父様が二〇〇〇年十一月に「父子協助時代が到来したので、母は必要ない」と語られたと述べ、その根拠として以下のようにみ言を引用します。

- ① 「祖国光復に向かって絶対信仰で進もう」二〇〇〇年十月二十八日(土)、韓国、中央修練院でのみ言。
② 「一族とクリスチャンたちを伝道しよう」同年十月二十八日(土)、前同所でのみ言。
③ 「真なる芸能人」同年十月二十九日(日)、前同所でのみ言。
④ 「大洋圏の開発と自立基盤の構築」同年十月二十九日(日)午前9時10分、前同所でのみ言。
⑤ 「愛の完成のための生涯」同年十月二十九日(日)午後4時、天宙清平修練苑でのみ言。
⑥ 「家庭王権宣布と解放圏時代の到来」同年十月三十日(月)、韓国、漢南国際研修院でのみ言。
⑦ 「ハワイを中心とした海洋摂理」同年十一月十八日(土)、ハワイ・オアフ島でのみ言。
⑧ 「血統復帰と真の愛の実体」同年十一月二十六日(日)、米国、イーストガーデンでのみ言。
⑨ 「天国の門の鍵」同年十一月二十八日(火)、前同所でのみ言。
⑩ 「血統の重要性」同年十一月三十日(木)、ブラジル・パントナールでのみ言。
⑪ 「愛の典型路程」同年十一月三十日(木)、パラグアイ・オリンポでのみ言。
⑫ 「神様王権即位式のための宣布」同年十二月一日(金)、ブラジル・パントナールでのみ言。

は違うのです。絶対愛によって神様が女を抱いてきましたが、そこに相対的立場に立とうとすれば絶対服従しなければならぬのです。その言葉は母に対する言葉です。母子協助時代を蹴飛ばして父子協助時代に移るの、母はここに協助しなくても絶対信仰、絶対愛、絶対服従していくことによって蕩滅する為に苦勞した全ての祝福を天から受けることができるのです」(マルスム選集456巻465ページ、二〇〇〇年十一月十一日/『統一教会の分裂』70ページの注釈)

まず、この出典表記はでたらめです。『文鮮明先生マルスム選集』456巻に「465ページ」は存在しません。456巻は316ページしかありません。

『統一教会の分裂』の出典表記の虚偽を理解するために、マルスム選集456巻に収録されたみ言の題目および日付、場

- 布」同年十二月一日(金)、ブラジル・パントナールでのみ言。
以上のように、同年十一月十一日のみ言はありません。
実は、二〇〇〇年十一月十一日のみ言は『主要儀式と宣布式IV』(成和出版社)の中に、「父子協助時代宣言」という題目で収録されており、そこに掲載されたみ言を『統一教会の分裂』は引用しているのです。『主要儀式と宣布式IV』韓国語版では456〜465ページ、日本語版では593〜605ページです。このみ言は13ページ、196行分にも及ぶものなのです(日本語版)。

このように、金鍾奭氏は、「父子協助時代が到来したので、母は必要ない」と真のお父様が語られたとするその根拠のみ言を「マルスム選集456巻465ページ」から引用したと記載していますが、実際には『主要儀式と宣布式IV』からであり、出典表記を偽っているのです。

所、ページ数などを以下、記載します。

目次を見ると、マルスム選集456巻には二〇〇四年六月二十五日(金)から六月三十日(水)までの、次の六つの題目のみ言が収録されています。

- ① 「絶対価値観と愛の主人」二〇〇四年六月二十五日(金)に韓国の麗水・清海ガーデンの早朝訓読会で語られたみ言。9〜83ページ。
② 「不変と本質と統班撃破活動」同年六月二十七日(日)に前同所語られたみ言。84〜141ページ。
③ 「霊界の実相と『天聖經』訓読生活」同年六月二十八日(月)に前同所語られたみ言。142〜204ページ。
④ 「一心不乱萬生懸命で努力しよう」同年六月二十九日(火)に前同所語られたみ言。205〜252ページ。
⑤ 「天曜日と『天聖經』を中心とした伝統相続」同年六月三

み言の出典表記に、架空のページ数を記載することは絶対にあってはなりません。この改竄行為は、『統一教会の分裂』が、真のお母様をおとしめる目的をもって書かれており、読者を欺くための書であることを裏付ける証拠の一つです。

(2) み言を継ぎはざること、意味を改竄する悪意の引用

金鍾奭氏は「み言の出典」を偽っているだけでなく、彼が「父子協助時代が到来したので、母は必要ない」と真のお父様が語られたとするみ言は、原典と比較すると、大幅に継ぎはざしており、しかも意味を改竄している事実が明らかとなります。金鍾奭氏が「み言の出典」を偽ったのは、大幅に継ぎはざしている事実、およびみ言の意味を改竄している事実などを読者に悟られないようにするための「隠蔽工作」ではないかと疑わざるをえません。

前項の「(1) 出典文献に関する隠蔽と、み言の改竄行為」で引用した『統一教会の分裂』に出てくるみ言の原典に当たってみると、このみ言は一段落(パラグラフ)で構成されたものではありません。前後の文章を大幅に省略し、継ぎはぎしながら創作したみ言です。『主要儀式と宣布式Ⅳ』(日本語訳)から、省略部分を示しながら以下、表記します。

「冒頭の書き出しから89行を省略)……ですから直接的で完全な愛の種を家庭的に受けて、父と息子が直系で連結されるのです。ここには母が必要ありません。……(56行を省略)……母子協助時代と父子協助時代とは違うのです。……(9行を省略)……絶対愛によって神様が女を抱いてきましたが、そこに相対的立場に立とうとすれば絶対服従しなければならぬのです。その言葉は母に対する言葉です。……(2行を省略)……

ていくのです。それゆえ、神様を中心として**真の父が現れ、真の父を中心として真の母が現れ、そこから生まれた息子と娘たちには、サタンは手をつけられないのです**(注…これは『統一教会の分裂』が省略したみ言)

真のお父様は、ここで「母親」という言葉と「真の母」という言葉とを、明確に使い分けておられます。お父様は、「**真の父**」が出てくる前までは、**母親**たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と複数形で語っておられ、ここで言う「**母親**が、いなくてもかまいません」とは「**真の母**」を指して語っておられる言葉ではありません。事実、「母の時代は過ぎ去り、父子摂理時代へと越えていくのです」と語られた直後、「それゆえ、神様を中心として**真の父**が現れ、**真の父**を中心として**真の母**が現れ……」と語っておられ、「母親」の代わりに「真の

母子協助時代を蹴飛ばして父子協助時代に移るので、母はここに協助しなくても絶対信仰、絶対愛、絶対服従していくことによって蕩減する為に苦勞した全ての祝福を天から受けることができるのです。……(最後まで34行を省略)」(注、この文章は『統一教会の分裂』の翻訳文引用)

このように、金鍾奭氏が「父子協助時代が到来したので、母は必要な(い)」と主張する根拠として引用したみ言は、前後の文章を大幅に省略し、継ぎはぎしながら改竄したものであることが分かります。そのうえ、み言の意味も、原典と比較すると、改竄していることが明白です。

結局、金鍾奭氏がみ言を大幅に継ぎはぎした目的は、真のお父様が「二〇〇〇年十一月には『母子協助時代が終わって父子協助時代が到来したので、母は

必要なく、父と息子が一つにならなければならない」と語った」ものとするので、「真のお母様は必要がない時代に入った」と主張したいがため、その主旨に合うように「改竄」するためだったのです。

(3) 悪意のある「み言削除」および「み言改竄」

次に、金鍾奭氏が引用したみ言の削除と、み言改竄に関する「問題」について確認していきます。以下、『統一教会の分裂』の文章と『主要儀式と宣布式Ⅳ』の文章を比較してみます。

「ですから直接的で完全な愛の種を家庭的に受けて、父と息子が直系で連結されるのです。ここには母が必要ありません」(『統一教会の分裂』70ページの訳文)

「ですから、直接的で完全な愛の種を家庭的に受けて、父と息子が直系で連結されるのです。

「ここには**母親**は必要ありません」(『主要儀式と宣布式Ⅳ』599ページ)

『主要儀式と宣布式Ⅳ』599ページには、「**ここには母親は必要ありません**」と書かれています。このみ言を正確に知るには、その前後を理解しなければなりません。『統一教会の分裂』が省略、隠蔽した少し前の部分に、重要なみ言が隠されています。『主要儀式と宣布式Ⅳ』598〜599ページは、次のようになっています。

「母子摂理時代ではなく父子摂理時代なのです。真の父母が出てくる前までは、**母親**たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきましたが、神様を中心として、直接、真の父母を中心として、息子と娘が生まれたために、**これからは母親がいなくてもかまいません**。母の時代は過ぎ去り、父子摂理時代へと越え

母が現れたことを明確に述べておられます。したがって、「**母親**がいなくてもかまいません」とは、「**真の母**」を指して語られた言葉ではありません。次は、日本語訳の問題点について指摘します。

「母子協助時代と父子協助時代とは違うのです」(『統一教会の分裂』70ページの訳文)

「母子協助時代と父子協助時代は違うという、ことです」となっています。この文章を読めば、

通常なら、どのように母子協助時代と父子協助時代は違うのかという探究心が芽生えます。ゆえに、それを知るために前後の文章を読むことが必要です。しかし、『統一教会の分裂』の日本語訳は「母子協助時代と父子

協助時代とは違うのです」と訳すことで、この一文だけで完結させ、母子協助時代と父子協助時代とは違うという意味に仕上げられています。これは、前後の文章を隠蔽し「母は必要ない」という論理展開をするための訳文と言わざるをえません。

「絶対愛によって、神様が女を抱いてきましたが、そこに相対的立場に立とうとすれば絶対服従しなければならぬのです。その言葉は母に対する言葉です」(『統一教会の分裂』70ページの訳文)

「絶対愛のために、神様は女性を抱いてきたのですが、そこに相対的立場に立とうとするならば、絶対服従しなければならぬのです。この話は、母親に対しての話です」(『主要儀式と宣布式Ⅳ』603ページ)

『主要儀式と宣布式Ⅳ』は、「絶対愛のために、神様は女性を

抱いてきた」となっています。しかし、『統一教会の分裂』では、「絶対愛によって、神様が女を抱いてきました」と訳します。「絶対愛のために」と「絶対愛によって」はニュアンスが全く違います。

そして、前項の「(2) み言を継ぎはぎすることで、意味を改竄する悪意の引用」で取り上げた『統一教会の分裂』が継ぎはぎして改竄したみ言を読めば、金鍾奭氏の意図が見えてきます。

すなわち、改竄したみ言の「母」の部分に「韓鶴子」の名に置き換えて読めば、彼の意図が見えます。『統一教会の分裂』が言いたいことは、今や、「父」と息子が直系で連結される(父子協助時代な)ので、もう「ここには母(韓鶴子)が必要ありません」。母子協助時代のときは、「絶対愛によって神様が女(韓鶴子)を抱いてきましたが、そこに相対的立場に立とうとすれば(韓鶴子が)絶対服従しな

ければならないのです。その言葉は母（韓鶴子）に対する言葉です。しかし、今や父子協助時代になったので、「母子協助時代を蹴飛ばして父子協助時代に移るので、母（韓鶴子）はここに協助しなくても（父と息子が）絶対信仰、絶対愛、絶対服従していくことによって蕩滅する為に苦勞した全ての祝福を天から受けることができるのです」。以上のように読ませたいがために、日本語訳を変えていることが分かります。

それは、『主要儀式と宣布式Ⅳ』の日本語訳の「絶対愛のために神様は女性を抱いてきた……」という文章では、そのようなニュアンスが弱まってしまっており、真のお母様をおとしめようとする目的が十分に果たせないためだと言えます。

次に、意図的に言葉を削除している問題について、指摘します。

「蕩滅というものがなくなったのです。母子協助時代が完全になくなって、神様と真の父と真の息子の血筋が連結しうる解放圏の最上地点に立ったのです」(599ページ)

「父子協助時代に生命の種を抱いて育てようとする女性たちは、夫に対して絶対服従しなければなりません。女性たちが今まで**本然の夫**を求めてくるのに、数千年、数万年の間犠牲になってきたという、その受難の歴史を越えて**本然の夫**を迎えることができる立場に立てば、絶対信仰・絶対愛・絶対服従の道理を果たさなければなりません」(602ページ)

以上の内容を整理すると、母子協助時代とは「真の父母が出てくる前」までのことを言うのであり、その時代までは「母親たちは息子たちを育てながら迫害」を受けてきたというのです。しかし、父子協助時代は「真の

「母子協助時代を蹴飛ばして父子協助時代に移るので、母はここに協助しなくても絶対信仰、絶対愛、絶対服従していくことによって蕩滅する為に苦勞した全ての祝福を天から受けることができるのです」(『統一教会の分裂』70ページの訳文)

「母子協助時代を退けて、父子協助時代へと越えていくために、母親はここに協助しなくても、絶対信仰・絶対愛・絶対服従していくことによって蕩滅するために、苦勞した時代のすべての祝福を天から受け取ることができるのです」(『主要儀式と宣布式Ⅳ』603ページ)

『主要儀式と宣布式Ⅳ』では「苦勞した時代のすべての祝福」となっていますが、『統一教会の分裂』では、「苦勞した全ての祝福」と訳します。『統一教会の分裂』が省略した部分を、『主要儀式と宣布式Ⅳ』と比較しながら読んで確認すれば、よ

父、母を中心として、息子と娘が生まれたこと始まり、それゆえ真の父母が現れるまでの迫害を受けてきた「母親がいなくても」よく、「母の時代」は過ぎ去って「母親たちが迫害を受けた」母子協助時代が完全になくなつた(た)時代なのです。また、父子協助時代とは「神様と真の父と真の息子の血筋が連結」されたことを意味します。それゆえ、父子協助時代の女性たちは、「**本然の夫**」に「絶対信仰・絶対愛・絶対服従の道理」を果たさなければならぬと述べておられるのです。

したがって、父子協助時代とは「母が必要ない」時代、すなわち「真の母は必要ない時代」なのではなく、母子協助時代のような「母親は必要ない」時代になるといえるのです。すなわち、「息子たちを育てながら迫害」を受けてきたような、そのような「母親は必要ない」時代になったという意味なのです。

り明確になりますが、この「苦勞した時代」とは、母子協助時代において、母親たちが苦勞したことを指しています。『統一教会の分裂』は「苦勞した全ての祝福」と訳し、意図的に「時代の」を削除しています。韓国語の原文にも「**누고한 모든 시대의 축복**」とあります。にもかかわらず「**시대의**」(時代の)を削除しているのです。

この事実は、『統一教会の分裂』が「韓鶴子の不従順」によって、「全ての祝福を天から受け取ること」ができない状況になったと主張したため、「時代の」を意図的に削除したものと考えざるをえません。

したがって、『統一教会の分裂』で「父子協助時代が到来したので、母は必要な(い)」と主張する根拠としているみ言引用は、意図的に継ぎはぎして創作した「み言改竄」であり、その翻訳も、真のお母様をおとしめるための画策と言えます。

父子協助時代によって、「真の父母を中心として、息子と娘」が生まれました。すなわち、父子協助時代だからこそ「神様を中心として真の父が現れ、真の父を中心として真の母が現れ」るのであって、それゆえに「真の母」は絶対的に必要な時代となったのです。

以上のことから、『統一教会の分裂』の70ページに、「二〇〇〇年十一月には『母子協助時代が終わって父子協助時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ』と語った」とする金鍾奭氏の言説は、み言を大幅に継ぎはぎし、その意味を改竄することで行った「虚偽」の主張であることが分かります。

UCI側を支持する人々は、真のお母様の位相をおとしめるために、み言を継ぎはぎし、改竄したみ言を用い、「父子協助時代が到来したので、母は必要ない」という歪曲したみ言解釈

(4) 父子協助時代とは、「母は必要ない時代」であるのか？

『主要儀式と宣布式Ⅳ』に掲載された「父子協助時代宣言」のみ言を理解するために、主要な部分を以下、引用します。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子摂理時代になるのです。母子摂理時代ではなく父子摂理時代なのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきましたが、神様を中心として、直接、真の父母を中心として、息子と娘が生まれたために、これからは母親がいなくてもかまいません。母の時代は過ぎ去り、父子摂理時代へと越えていくのです。それゆえ、神様を中心として真の父が現れ、真の父を中心として真の母が現れ、そこから生まれた息子と娘たちには、サタンは手をつけられないのです」(598～599ページ)

を行っています。

一つ一つ検証していくと、金鍾奭著『統一教会の分裂』は悪意に満ちた「虚偽の本」であると言わざるをえません。リード文でも述べたように、原本の韓国語版の『統一教会の分裂』は、真のお父様のみ言を継ぎはぎすることで意味を歪曲させて「み言改竄」を行っており、その歪曲した文章を、さらに日本語訳では自分たちに都合が良いように悪意を持って「誤訳」しているのです。

私たちは、み言改竄によって真のお母様をおとしめようとする悪意のある策略に惑わされてはなりません。UCI側を支持する人々は、このようなみ言改竄、およびその書籍を流布することが、真のお父様の位相をおとしめ、お父様を裏切り、摂理を誤らせる行為であることをはっきり悟って、自らの行いを猛省すべきです。